

WIN CONCORD  
WIN コンコード

NEWSLETTER

2015  
vol.25



## 和歌山の方言

会 員 藤原 泰男

私は留学生の日本企業への就職活動を支援させていただいている藤原泰男です。

皆さんは大きな夢と希望を持って和歌山での学生生活を始められたものと思いますが、外国で生活するときが一番大事なことは、その国の言葉を理解し、人々とコミュニケーションをとることができる語学力です。そのため、皆さんは母国で長いあいだ日本語の勉強をされてきました。

和歌山に來られて、自分がこれまで学習してきた日本語の発音や単語と、こちらで話されている言葉は少し違うと覚えることはなかったでしょうか。理解できない単語や、聞いたことのないアクセントがたくさんあったと思われます。これまで自分が学んできた日本語と、和歌山の人々が話す言葉は同じ日本語なのだろうかと疑問に感じられたこともあったと思います。

実は、私も 40 年前に同じような経験をしました。大阪市内で生まれ育った私は、地元の大学で水産学を勉強してから、米国の大学に 1 年間留学しておりました。帰国後、縁あって和歌山県内の市役所水産課へ就職したのですが、そこで話されている言葉は聞きとれない単語が多く、理解する

にはかなりの時間が必要でした。特に、仕事の関係で漁業者と話すときは、彼らが何を言っているのか分からず、同じことを何度も聞き返したものでした。出身地が違えば、日本人同士が日本語で会話しても、理解するのに多くの困難を伴うことがあります。日本には、それぞれの地方ごとにたくさんの方言があり、和歌山には「和歌山弁」と呼ばれる、この地方独特の方言があります。和歌山弁は近畿地方の方言の一つですから、基本的には京都や大阪と同じアクセントです。しかし、和歌山弁の特徴は「ざじずぜぞ」を「だぢづでど」と発音します。さらに、和歌山弁で特筆されるものとしては、敬語があまり使われません。ですから、私が初めて和歌山に來たときに感じたことは、敬語が少ないので言葉が非常に荒く、きつい表現で話されるため、まるで毎日叱られているように思いました。しかし、これはお互いが敬語を使用しないことが習慣として了解されているのであって、決して和歌山県の人々が叱っているのでもなければ、怒っているのでもありません。人々は毎日穏やかに生活しており、外国から來られた人に対しては温かく迎え入れてくれるところがあります。きつい言葉に驚き、地元の人々との交流を避けるようなことはしないでください。

せっかく和歌山に來られたのですから勉強だけではなく和歌山で友人を見つけ、たくさん和歌山弁を覚えてから帰国されることを願っています。



## 中国における漢服復興運動

万 川琳（中国）

私の一番好きな歌手は周傑倫といいます。なぜここで歌手の話をするかといいますと、この人は、「中国風」という曲風をつくった男の人です。そして、彼の新しい歌『天涯過客』のミュージックビデオの中で、漢服と中国伝統文化の魅力を人々に提示しました。

実は、数年前から周さんの専用作詞者である方文山氏が既に「漢服復興運動」に取り組み始めました。台湾の有名人まで漢服運動に熱心に参加してくれることに非常に感心しました。しかし残念なことに、中国大陸地域で生活しているのに漢服の意味さえ知らない人がまだまだ多いです。

漢服とは、漢朝の服ではなく漢民族の服で、皇帝の統治時期（西暦前 2698 年）から明末（17 世紀半ば）の四千年の間、漢（華夏）民族の礼儀・文化に基づいて形成された、漢民族の特色を持ったユニークな服装体系です。

漢服復興の支持者として、私は時々、「漢服が人々の日常生活から消えたのはもう三百年前のことなのに、なぜまた復興なんて考えているのか？」と聞かれます。何も知らないのに悪意のあふれた評論を加える人もたくさんいます。

ここで少し歴史の話をする必要があります。実は、清朝の満族の統治によって、漢民族の文化があれから三百年間姿を消しました。その期間、僧侶、赤ん坊と伝統劇の俳優の服装にだけ漢服の形を用いることができました。更に、中華民国以後は、満族の服装から改良されたチャイナドレスやチャイナ服、そしてスーツと日本学生の制服を真似た立て襟の中山服が逆に中国の伝統服装とみなされています。

漢文化が中国の主流文化だから、ほかの民族の服装が中国の伝統服装になってはいけないわけではありません。ただ、全国大会や伝統祝展、ないし外国における文化交流会に参加する時、漢族の人は洋服を着て参加するほかないのを見るたびに、言葉で言い表せない程の悲しみが迫ってきます。彼らも、ほかの民族や外国の人々がそれぞれ自分の伝統的な服装を着ているのを見て、きっと辛くなるでしょう。

中国は多民族の国家で、各民族はそれぞれ独自の民族衣装を持っていますが、今の漢族だけは自



分の衣装がありません。これが漢文化の悲劇だと思います。

漢服復興運動が始まったばかりの時、漢服を着て町を歩いたら、よく和服や韓服と混同されます。人々がだんだん漢服の存在に改めて気づいてきたから、間違える状況も少なくなり、イベントに参加するときや、日常生活中まで漢服を着る人も多くなりました。しかし、ここでまた漢服を復興する必要があるかどうかという論争が出てきました。確かに、日本の着物は断絶がなくずっと発展してきましたが、漢服はそれと違って長い断絶がありました。今さら復興といっても、ただのコスプレだという人も多いです。漢服の復興を望んでいる人たちの中でも、漢服の便利さや実用性を疑い、今までの形を変えるかどうかについて激しく論争しているようです。しかし、漢服の復興は、服装の復興だけではなく、人々が忘れた、見てみぬふりをした漢民族の伝統文化、美德を喚起しようとする復興活動なのです。

私はハニ族ですが、一人の中国人として伝統文化を守る責任を感じました。自分の民族特有な文化、服装を持っているのが当たり前のことなのに、中国で人数の一番多い漢族は、その当たり前の服装を持っていないことがどうしても気がかりであり、放置できません。自分の民族の歴史と伝統を理解し、民族と国の歴史と文化を知ることが、どの民族、どの国の人々にとっても、とても大切なことだと思います。中国の習近平主席夫人もきっとそう考えて、外交活動で着る服に漢服のイメージを入れたのでしょう。

漢服についての論争はまだ続くと思います。しかし、分かる人はきっと漢服復興のためにがんばっていくと思います。いつか皆さんが何も考えずに、漢服を着て町を歩ける日が来ることを心から祈っています。

## スリランカ

イシャーラ（スリランカ）

スリランカはインド洋に浮かぶ小さい国である。インド半島の南東に位置しており、国の形や美しさが真珠と似ているから「インド洋の真珠」と言われている。首都はスリージャヤワルダナプラコーッテだ。主要言語はシンハラ語で、主な民族はシンハラ人である。しかし、タミル人もムーア人も他の少数民族も住んでいる。スリランカの主な宗教は仏教なのに、ヒンドゥー教もキリスト教もイスラム教もある。

長い歴史があるスリランカでは、紀元前 483 年からの歴史が記録されている。紀元前 483 年にスリランカの初代王になったウィジャヤから、シンハラ人が代々続いていると言われる。そして、紀元前 250 年にインドからスリランカへ仏教が伝わった。仏教の影響で国の文化や文学や芸術だけではなく経済も発展してきた。

デットゥゲムヌ、パラッカラマバーフ、ウィジャヤバーフなどの王様に治められたスリランカには、大きい湖やパゴダや寺院などが建設された。農業振興のため、大きい湖をつくるとその土を使って大きなパゴダが建てられた。そのパゴダの付近に寺院ができ、そのお寺を中心にして村ができたので、湖やパゴダと村やお寺の概念が生まれた。当時、湖を中心にして農業が発達し、お寺を中心にして良民が育った。そうして経済的にも人間の性格的にも発展したスリランカは、世界の豊かな国になっていった。今でもよく利用されているこのような湖をつくる技術が、ずっと以前の時代にあったことは不思議だ。当時建てられたパゴダや城などの建築様式の技術が、その頃どのようにしてできたかを理解することは難しい。昔から、スリランカはたびたびインドから侵略を受たり、ポルトガルとオランダからも侵略された歴史がある。1815 年、最終的にスリランカはイギリスの植民地になった。それ以後は王様の時代が終わりイギリスに支配された。この時代には、スリランカ人とイギリス政府と間に内戦が起こった。結局、1948 年 2 月 4 日スリランカは独立した。イギリスの植民地時代にスリランカでは紅茶の栽培とゴムの木などを植えたので、スリランカの紅茶は世界的に有名になった。そして、スリランカの紅茶、ゴム、ココナッツ、宝石、コーヒー、シナモンなどが輸出の商品になっている。



歴史的にも豊かで美しい自然もあり、スリランカを訪れる外国人はどんどん増えている。古代に建てられた城や仏像やパゴダや寺院などの遺跡も見学できる。その他にも、スリランカの歴史的な場所で最も有名なシーギリヤは不思議なところだ。大きい岩山の上に王様の城を建て、そこまで水道の供給があり、その岩山の壁には世界で一番有名なインドの「アジャンター」という絵と同じ絵が描かれている。そして岩山の周りには池などをつくり、王様のために便利な宮殿を建てた。500 年以上前に、このような技術が使われていたということは驚くべきことである。そして、このような歴史的に大切な場所がたくさんある。

スリランカでは毎月の満月に、仏教の人はお寺へ行ったりお参りしたりする。特に、仏様の歯がスリランカに置いてあるので、スリランカ人にとってそれはとても大切だ。毎年 7 月に、仏歯寺があるキャンディでは大きいお祭りが行われる。それは仏様の歯を尊重するためだ。「ペラヘラ」というその祭りは美しく、文化的にもとても大切だ。

スリランカの主食はご飯で、食べる時だいたいカレーと一緒に手で食べる。そして、おいしい果物もお菓子もある。村では果物や色々な食べ物が自分の庭にあることも普通だ。さらに「アーユルウェーダ」という医療は、植物を中心にした医療の方法で昔からスリランカにあり、現在では外国人にも行われている。

スリランカの教育システムは無償教育システムである。しかし、大学の入学試験として認められる高校の卒業試験はとても難しく、10%しか入学することはできない。

スリランカの食べ物などの生活必需品の値段はあまり高くないので生活しやすい国だと思う。まだ発展途上国のスリランカは、内戦が終わった頃から発展した国になるため頑張っている。

## コロンビア

### パウラ（コロンビア）

コロンビアから来た留学生のパウラです。去年の9月に日本に初めて来ました。和歌山大学で日本研修生として、日本語と日本文化を勉強しています。

子供の時から日本文化に興味があったので、日本で勉強するのは私の夢になりました。そのため、コロンビアのアンデス大学で日本文化について学習していました。去年、日本に来る事になりました。日本へ留学するのが嬉しくて楽しみにしていました。コロンビアから日本まで飛行機を2回乗りかえ 22 時間ぐらいがかかりました。日本とは時差が 14 時間もあるので、初めの頃は時差ぼけが大変でした。

コロンビアはあまり知られていない国だから日本に着いた後、一つの事で驚きました。「私はコロンビアから来ました。」と言ったら、ほとんどの場合に国の場所が分からなくても、「コロンビアのサッカーすごい！」と「美味しいコーヒー」や国についての質問が少なくありませんでした。会った人々の質問のおかげで、私もコロンビアについて色々な事をもっと深く気付きました。日本に来て新しい生活を始めて、親切な人々に会って、色々な国から来た友達と遊んで、とてもいい経験だと思います。日本文化について勉強しに来たけれども、自分の国についても習う機会になっています。エル・ドラド伝説が生み出したコロンビアは、特別な美しさや風味を持っている国だと思います。

コロンビアは南米の北の部分にあってパナマ、ベネズエラ、ブラジル、ペルー、エクアドルと国境を接しています。コロンビアの人口は日本の 3 分の 1 で、広さは日本の 3 倍です。国語はスペイン語ですが 70 以上の言語も話されています。日本と違って人種が多い国です。歴史のおかげでコロンビア人の人種や音楽や文化は、アフリカやヨーロッパや先住民などの影響を受けています。国内には色々な美しい景色もあります。アマゾンジャングル、カリブ海や太平洋の海岸、島々、アンデス山脈、平らな土地、「五色の川」と火山もあります。コロンビアのコーヒーも有名です。コロンビアのコーヒー豆は、様々な地域で作られているから種類や味が多くあります。エメラルドやバラの産業も大切です。



コロンビアは赤道に近い国だから雪が降らなくて四季もない。しかし、いつも暑い夏のような天気があるわけではない。寒い場所も暑い場所も色々ある。地域によって天気と景色や食べ物も違います。一つのいい点は、同じ国で車に乗って2時間ぐらい走ると全く違う天気や景色の町に着けます。私はボゴタの出身です。ボゴタはコロンビアの首都で、広くて文化とスポーツが盛んな町です。標高約 2460m の高原地帯にあるから平均気温は 14℃ ですが、一日の気温の差が大きいです。それで、ボゴタでは一日に全部の季節を体験できると言われています。食文化も地域によって違います。例えば、ボゴタの名物料理はアヒアコというジャガイモでできていて、ご飯やアボカドと食べられているスープです。他の地域に行くと豆、肉、ご飯や卵が入ってあるバンデハ・パイサという料理は名物です。海に近い地域に行くとココナッツライスと海鮮料理です。このようにコロンビアでは様々な名物料理や美しい景色と習慣があります。

コロンビアの情報を色々と伝えてみましたが、どんな国かと理解するためコロンビアに来てみてください。外国は実際に行ってみないと本当の味わいは分からないと思います。私は日本に関してそれを感じました。日本に来たのは良かったと思います。勉強した国を経験できるのは素晴らしいことです。今まで、日本の色々な美しい場所へ旅行したり、伝統儀式に参加したりしました。とても嬉しいです。季節の変化や日本文化を実際に経験できるのを楽しんでいます。

WIN コンコードや大学の人たちのおかげで色々な素晴らしい経験ができています。お世話になっていること、とても感謝しています。今学期もいい経験ができて、日本語もよく話せるように頑張ります。

## 京都への思い

張 大鶴（中国）

こんにちは、中国から来た張大鶴です。交換留学生としてのこの1年は、自分にとってとても特別な1年だったと思います。

本当に旅行が大好きですから、時間の余裕があればいつも日本のあちこちに旅行に出かけました。旅の間、日本の美しさや魅力を感じた上に、日本文化への理解や興味も深まってきました。この1年間に、ざっと数えたら小樽、函館、東京、箱根、松本、金沢、名古屋、姫路、広島、長崎、別府など20ヶ所ぐらい旅行しました。もし「最も好きなところはどこですか」と聞かれたら、思わず「京都」がすぐ口から出るだろうと思います。なぜかという、京都は本当にいいところですから。

今まで京都へはもう10回近く行ってきましたが、初めて京都に出会ったのは川端康成の「古都」を通して見た京都です。「古都」を読んだ時、京都に生まれ育った千重子の目に広がる京都は一体どんな景色かなというも思いながら読んでいました。幸いなことに、留学生としての1年間に京都への旅行の時間はたっぷりありました。

京都は四季折々の豊かな景色が楽しめます。初めて京都へ行ったのは5月の初め頃でした。嵐山のあたりで、春を感じさせる光景にびっくりさせられたことをよく覚えています。山には新緑に萌える木々がたくさんあり、新鮮で自然な感じが溢れていました。そして、透明度のある桂川が流れていて、何匹もの鴨が川の中で遊んでいたり泳いでいたりした景色に感動しました。このような光景が目の前に広がっているのを見て、心も洗い流されたようでした。

夏の京都は、もし快晴だったら気温が大体30度以上になり、とても暑かったのですが祇園の近くの古い町並みを回ったり、洗練された庭をのんびり散歩したり、鴨川の岸で一息したら、すぐに疲れが癒えて心まで爽やかになりました。龍安寺に行った時、気温がすごく高かったことをよく覚えています。ハスが咲いている鏡容池を通して方丈庭園でお坊さんのように座ってから、じっと枯山水に目を凝らしました。いつの間にか心が落ち着いて体も涼しくなりました。そして8月頃私は先生と一緒に京都で「壽三升景清」という歌舞伎を観ました。日本語のセリフがよく分からない時も



ありましたが、歌舞伎の美しさを感じることができたと思います。俳優の衣装も綺麗だし、発音も素晴らしかった。それより、もっと胸に響いたのは俳優たちが一所懸命に演じていた姿だと思います。いい思い出がいっぱいでした。夏の京都はいいのではないのでしょうか。

秋は独特な景色が見られる時期だと思います。どんな景色かという、真っ赤な京都です。嵐山のあたりは春の景色と全然違う光景に変わっていました。山に真っ赤な葉っぱや黄色い葉っぱなど色々な形や色の紅葉があって、とても綺麗でした。それより、もっと美しいのは東福寺の紅葉だと思います。通天橋から見下ろすと下の光景は真っ赤な海だと言っても過言ではありません。永観堂で行われた夜の紅葉ライトアップも見逃してはならないと思います。ライトアップで紅葉が一つ一つキラキラ光るように見えました。

冬は静かな季節だと思います。冬になると、花や木は段々枯れていきますが、独特な美しさがあります。昔ながらの建物を見ながら古い町並みを散歩していると、歴史や数百年前の生活に触れたような感じがしました。とてもいい気分がしました。

京都がこのようによく保護されているのは、人々の努力の賜物だと思います。京都には寺院が3000ヶ所以上ありますが、数百年経った今も完璧に当時の面影をとどめているのは、人々が工夫して保護してきたからだだと思います。そして、古い建物の近くでは、例えば南禅寺や高台寺のあたりでは、古都の雰囲気を変えないように新しいホテルは大きさや形が古い建物とほぼ同じようなデザインの建物にしています。新しい建物でも古い建物と一体になるように見えます。

京都、大好きです。

## 北海道の思い出

王 婷玉（中国）

あれは6月の初め、ちょうど暖かい天候になってくる季節の時のことだった。ある日インターネットで北海道の芝桜が満開の美しい写真を見た。数え切れないピンクの花が海のように山野に咲きそのどこにも見たことがなかった美しさを私はすごく気に入った。情報を調べてみたら、そこは日本で一番広い芝桜公園で、非常に人々に愛されるスポットだと分かった。しかし、芝桜の旬があるので、この東藻琴芝桜公園の芝桜が1週間後散ってしまうと書いてあった。今から行こうかなと思い、友達を呼んですぐ来週の「北海道の旅」という計画を立てた。

初めて計画を立てることなので、ずっと不安だった。このようにしてしまうと大丈夫かな？たくさん電車を乗りかえるのは、本当にできるかな？などのことをすごく心配していた。最後にようやく、いろいろ楽しみにしながら北海道への飛行機に乗り、旅が始まった。

飛行機といえば、すごく速いので、遠くに行っても離れたとか近づいたとか、あまり感じにいくと思っていた。けれども、飛行機を降りたとき時、その特別で爽やかな涼しさに「ここは北海道よ」と教えられた。

到着の翌日には、美瑛の四季彩の丘に行った。春なので花々が咲き始めたばかりだった。案山子のあたりに立つと、目の前に色とりどりの花の海が見え、その美しさと新しい命の可愛さに嬉しくなった。花が咲いている丘の下には、とても広い畑と森があった。更に遠くを眺めると、雪の積もる山々がはっきり見えた。農民たちが耕している姿と素敵な景色を合わせると「これは誰か有名な画家が描いた絵じゃないの？」と思ってしまった。

次の日、東藻琴芝桜公園に行った。「あんたたちはホントにラッキーだね。今日は開園の最後の日、芝桜はもう半分ぐらい散ってしまったんだ。」とタクシーのおじいさんが言った。しかし、花はまだ野山に満ち溢れていた。淡いピンクや深いピンクの他に白色もあって、うっとりするほど美しかった。頂上に登ったら、遠くにとても広い平原と美しい山々もよく見えた。ここでは一秒でも惜しく、なんでも見つめたく、瞳に入っている風景はずっとずっとそのままであって欲しいなと思った。



最も印象深いのは、旅の時に出会った人々である。「青い池」で最終のバスに間に合わず困っていたら、親切にマイカーで私たちを美瑛駅に連れてってくれた若い夫婦。私たちが富良野へ行く途中の綺麗な景色を見ている嬉しい顔を見て、微笑んでくれた向こうのシートに1人で座っている優しいおじいさん。網走監獄への行き方がわからなくて尋ねたら、ずいぶん熱心に長い時間かかって調べ、私たちに教えてくれた芝桜公園案内所のおばあちゃん。そして友達に「寒い」とささやいただけで、すぐ貼るカイロと黒飴を持ってきてくれたり、タクシーに乗ってお別れの時、見えなくなるまでずっと手を振っていた台湾のおばちゃん。網走の素晴らしい景色を見せるため、わざわざ展望台へ連れてってくれたタクシーのおじいちゃんなどなど、数え切れない優しさが私たちの旅を更に忘れがたくしてくれた。

短い3日間のあと、北海道から和歌山へ戻ったとき、この旅のことを思い出した。いつも自分ではできないと思ったことが、ようやくできるようになってきた。アニメやドラマの中でしか見られなかった素晴らしい自然も、ほとんど自分の目で見たり、親切な人々にも会ったり話したりして本当に満喫した。その時から、あちらこちらへ旅に行くのは非常に魅力的なことだと思えるようになった。毎回その北海道の旅を思い出すと、心が温かく感じる。北海道の万物がよみがえる暖かい季節の思い出が、今でも落ち込んだとき私を支えている。

旅で見るものと聞くものは、世界の多様性と広さを教えられる。まだ素晴らしいところがいっぱいあり、人生の行く道がいっぱいあり、ただ小さな失敗や迷いは全く気にしない方がいいのではないかな。いつか、わかるようになるかもしれない。なので、もし時間があったら、みんな旅に行こう。

## 新留学生紹介

ゲイン テイ キュウ チャン (ベトナム)

はじめまして。ベトナムから参りましたゲイン・テイ・キュウ・チャンと申します。名前が長いですが、チャンと呼んでください。ホーチミン市師範大学の日本語学部の四年生です。

日本に興味を持ったのは子供の時からです。その時、ドラえもんやちびまる子ちゃんなど日本の漫画をたくさん読みました。たくさんの漫画を読んだので、漫画を書いた国を調べたく思いました。だから日本に興味がありました。

趣味はたくさんあります。インターネットで音楽を聴いたり、ドラマを見たり、フェイスブックをチェックしたり、本を読んだり、旅行したりすることです。最近、散歩することも好きになりました。なぜかという、散歩すると気持ちもいいし、体も強くなる感じがするからです。

三年間ベトナムで日本語を勉強している私は、自分の日本語のレベルがまだ足りないと思うので日本へ留学しました。日本に留学したら日本語だけではなく、日本の文化やマナーや日本人の働き方なども勉強できて、将来の仕事に役に立つと思います。そして、外国に行ったことがない私は、外国の生活を経験したいです。将来、日本語の通訳者になりたいです。とても難しいと思いますが、もっと頑張りたいと思います。

王 研子 (中国)

皆さん、こんにちは。私は王研子と申します。中国広西チワン族自治区の桂林の出身です。

桂林はとても綺麗な町です。気候は温暖で、湿度も高いところです。冬は寒くなく、夏も暑くなく、四季もあり緑に溢れ、年間平均気温は19度です。桂林は豊かな生態環境に恵まれています。「桂林の山水は一」と呼ばれています。昔から、私は日本のアニメが大好きです。だから、ずっと一度日本に行ってみたいと思っていました。初めて日本に到着した時、違う世界だと思いました。日本に来て最初の印象は、先ず交通のルールを皆さんがよく守っていて、車が多い割に交通事故は少なく、スムーズに流れていると思います。驚きました。そして、生活支援の施設はとても便利です。コンビニが24時間開いているし、どこもかしこも自動販売機を設置しているし、全て規則通りです。初めて日本の桜を見て、綺麗だと思いました。初めて日本の海を見て、壮観だと思いました。こんな美しい環境で勉強するのは良かったです。とても嬉しいことです。

日本語はもう1年間勉強してきましたが、会話はまだうまくない。先生と先輩たちのおかげで、生活はだんだん慣れてきましたし、日本語がだんだんわかるようになりました。留学でのいろいろな経験を自分の成長に生かそうと思います。この1年間、私は楽しみながら積極的に暮らします。そして、日本語の勉強も頑張ります。



#### イリンツェエワ ディナ (ロシア)

私はイリンツェエワ・ディナです。ロシアから来ました。

私の故郷は、ロシアの東南部にあるブリヤート共和国です。ここは、ブリヤート人とロシア人が一緒に住んでいます。ブリヤート人は、モンゴル人と親類関係にある民族です。中央アジアの遊牧文化に属しているが、現代のロシアの文化圏に入っている所以ロシア人と価値観を共有しています。

私は東アジアの文学・芸能・思想に興味を持ち、ブリヤート国立大学で日本語と中国語を勉強することになりました。特に、古典文学や詩歌に懂れています。私が研究しているのは、江戸時代の近松門左衛門の作品です。彼の非常に優れた、強い感情を込めた作品が好きです。

日本に留学している間、日本語を向上させたり、日本文学の傑作を読めるようになりたいと思います。そして、日本文化の中心である「大和魂」の正体を理解したいです。

留学は、とても大事な経験だと思います。母国を代表して国際交流を経験し、世界の多様性を知ることができます。視野が広がり、新しいものを見ることができます。だから、日本に来てよかったと私は感じました。

#### レイ キエン チャイン (ベトナム)

皆さん、こんにちは、私は Lay Khien Chanh と申します。Lay Khien Chanh という名前はベトナム語の名前です、ちょっと読みにくいので、チャインと呼ばれます。ベトナムの南にあるホーチミン市から参りました。趣味はいっぱいあります。例えば旅行すること、映画を見ること、歌を歌うこと、料理を作ることです。自分の日本語の能力を極めるという目的で、和歌山大学の交換生になりました。日本に来てから、もう1週間になりました。和歌山市に来たばかりの最初の感想は静かで、風景はきれいで、空気もいいと思います。でも、ベトナムの暑い国と比べてと和歌山市はとっても寒いと感じます。22歳の私は家族と離れて、1人で1年間の生活が始まりました。寂しくてホームシックが心配なことはもちろんですが、楽しいこともあります。でも、私はずっとがんばります、絶対にあきらめません。

#### 黄 可心 (中国)

はじめまして。黄可心と申します。中国の南京



から参りました。

子供の時はアニメが好きでした。初めてテレビで「美少女戦士 **Sailor Moon**」というアニメに出会って夢中になりました。しかし、あの時見たアニメは、中国語に吹き替えられているアニメです。今の私は日本語を少し習っているから、そのアニメをもう一度見てみるとすごくいい感じがします。

高校時代は理科ばかり勉強しましたが、実は言語が好きです。高校は「簡単な日本語の会話練習」というサークル活動に参加したこともあります。だから大学に入る時は日本語を専門として選びました。たぶん私は日本語には縁があると思います。

私はこれまで日本語を1年半ほど勉強してきましたが、まだまだうまく会話できません。今度の交換留学をきっかけに、まずは和歌山大学で日本語をしっかりと勉強します。そして、日本語の勉強だけではなく、日本の社会や文化に対する理解も深めたいと思います。また、積極的に先生や学生と交流し、いろいろな勉強と課外活動にも参加したいと思います。

#### ザナ (マレーシア)

はじめまして。マレーシアから来ました、和歌山大学の留学生「ザナ」と申します。本当の名前は **Nur Deena Firzana Binti Mohd Rosni** だけでも「ザナ」でいいです。

家族は私を含めて7人います。両親と2人の姉と2人の妹です。趣味は小説を読むこととドラマをみること(特に韓国のドラマ)です。

日本に来たのは初めて、マレーシアからも家族からも離れました。新しいところは、今まで生きていた周りと全然違って、家族も友達もいなくて1人で生活しなければならないので、すごく怖いです。でも、これは私が選んだ道だから、あきらめずに最後まで進みます。周りの人からもよく応

援してくれるから、少し安心しています。確かに、ここへ到着した後から色々な問題が出てきて、これからまだまだたくさん問題が待っているけれどもそれは私が成長するために必要だと強く思うからいつでも全力で頑張ります。色々話したけれども、これからよろしくお願いいたします。

#### マリ ジベール (フランス)

皆さんこんにちは。私はマリ・ジベール、22歳でフランスから来ました。私はフランス東部にある「ペルフォール・モンベリヤール工科大学」の5年制の工業大学で機械設計を学んでいます。

大学の課程で、4回生になれば会社か又は、研究所で6ヶ月間の実地研修を受けなければなりません。私は和歌山大学の「光メカトロニクス学科」の研究室で勉強をする機会を得ました。

和歌山での1ヶ月間の生活は、これまでの人生で最も素晴らしい経験でした。日本に到着してからは、新しい生活に早く慣れるように助けてくれる素敵なおとももいい人達にお会いすることができました。和歌山での生活がうまく展開して、たくさんの新しい発見があったので、ホームシックになる暇もありませんでした。

私は毎日の生活が本当に気に入っています。そして、これからも8月まで多くの事を学び、たくさんの人々にお会いして大いに楽しむことが出来ると期待しています。

お世話して下さいる皆様に感謝いたします。

#### ブイ ティ タイン スアン (ベトナム)

私の名前は **Bui Thi Thanh Xuan** と申します。

**Xuan** というのは日本語で春という意味です。

今、日本は春になり私の気持ちも良くなりました。

私の国はインドネシア半島の東に位置し、北は中国、西はラオス、カンボジアと国境を接します。母国の天気は熱帯ですから、果物も野菜もたくさんあります。特別な米もあります。世界へ米を輸出しています。ベトナム人は食事をしてから果物をよく食べています。それで、家族の食事に欠かすことはできません。多くの野菜で作られる料理は美味しく健康にいいです。

それに、ベトナムでは地方によって料理が違います。ハノイを中心とした北部で特徴の北部料理にはフォーがあります。北部料理の味は少し塩辛いと感じます。中部料理は、かつて王朝のあったフエで、料理のブン・ボーフエというのは、丸麺と牛乳で作られることです。中部料理は辛くて塩辛いです。ホーチミン市を中心とした南部でバイ



ン・ミーがあります。これはフランスとベトナムの食文化が融合して誕生しました。南部料理は甘いです。

今ベトナムの天気はとても暑いです。日本の天気は反対です。関西空港に着いた時は、天気にショックを感じました。今まで1週間、だんだん慣れていきます。それだけでなく、毎日少しずつ食べて日本料理も食べられました。その上、日本の道路に車もたくさんあるし、左側を走ります。でも、ベトナムに比べると多くのバイクもあるし、左側を走ります。初めての日、日本の交通のルールを勉強しなければなりません。

先週の日曜日、WINのお父さんとお母さんは、私たち寮生を和歌山城へ花見に連れてくれました。それに、お弁当を用意してくれたので、感謝しました。そんなことを経験して家族を思い出すのが少なくなりました。1年間は短期だと思いますが、全国を旅行して日本の文化と日本人の考え方も勉強したいです。

#### 藍 宜芳 (台湾)

藍宜芳と申します。台湾から参りました。日本語を勉強するために留学を決めました。名古屋で1年半住んでおりました。最初は日本語学校で授業を受けたがとても大変でした。しかし、大変だけれども楽しかった。友達はお互い支えあうし、何か分からないことがあったら、すぐ先生たちに質問し、全般的に理解できるよう何度も聞きました。大学では色々な観光知識の基礎やビジネスの分野を学びます。

旅行会社における管理に興味があり、日本で進学することにしました。特に日本は観光立国で、日本の観光資源と観光サービスがいいと世界中で褒められています。日本の旅行環境とサービス精神あふれる日本人の姿勢に魅力を感じます。客を

丁寧に接客する日本人の姿勢、それが私を一番驚かせたところです。日本のいろんな良さを見習いたいと思います。

桜咲く時期、新しい環境に移ったばかりの時、かなり不安でした。しかし、国際センターの先生と WIN コンコードのお母さん、お父さんたちのおかげで新しい友達を作ったり、綺麗な桜も見ました。和歌山県が少し好きになりました。これから和歌山大学の観光学科の研究生として、いい思い出を作りたいし、色々なことも体験したいと思っています。

#### エレナ（グアテマラ）

私の名前はエレナ、グアテマラから来ました。私は公立小学校で教員として働いています。その上、マリアノ・ガルベズ大学で数学を学んでいます。

グアテマラの教育省は数学教育について、常に日本の政府から援助を受けています。私がここへ来ると決めた理由の一つは、この分野の教育の準備をするためです。グアテマラの教育省では、過去数年にわたり教育改革のために教科課程を変えてきました。

私は日本の教科課程をもっと学ぶため、そして学生たちの数学のレベルをどのようにして進歩させることができるかを学ぶために来ました。

私はグアテマラのサン・カルロス大学と和歌山大学とに連携があるため来日しました。両大学では、毎年学生の交換が行われています。

ところで、グアテマラと日本は高い文化と歴史と伝統がある美しい国です。そして変化のある経験をすることは、我々に成長をもたらします。

私は両国の親切な人々と美しい自然が好きです。和歌山での滞在を楽しみたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



トラン ティ キム ロアン（ベトナム）  
トラン・ティ・キム・ロアンと申します。

ロアンの意味は鳳凰です。ベトナム人の考え方では、鳳凰は立派な鳥で美しく、権能で優秀な鳥です。そして、昔ベトナムに有名で綺麗な歌手がいました。その人の名前もロアンですから、母はこの名前をつけてくれました。なので、ロアンは日本語に翻訳すると、美優という意味があります。だから、美優と呼んでください。

日本に来てから、もう半年たちました。早いですね。初めて日本に来て、日本人はとても速く歩くこと、道に人が大勢いること、海はすごく綺麗でゴミが全然ないことなどに驚かされました。その時、やはりここは日本だと思いました。

毎日、会館から自転車では他の留学生と一緒に大学へ行っていて勉強しています。その上、先生は日本文化、日本人の生活、日本人の考え方など色々なことを教えてくれました。教えられたことを通じて、日本のことがだんだん深く興味を持つようになってきました。新学期がもう始まりましたから、もっと一生懸命勉強して有意義な留学生活を送りたいと思います。

## 2014 年度 活動経過

|           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 4 月 5 日   | 新入生歓迎お花見                         |
| 5 月 19 日  | WIN コンコードニュースレター 24 号発行          |
| 5 月 25 日  | 第 6 回 NPO 法人 WIN コンコード<br>総会・交流会 |
| 6 月 29 日  | 紀州ぶんだら踊り練習                       |
| 8 月 2 日   | 紀州ぶんだら踊り・パーティー                   |
| 9 月 5 日   | 「和歌山世界遺産を学ぶ」<br>熊野古道             |
| 10 月 5 日  | 第 23 回故郷を語る集い                    |
| 11 月 23 日 | 大学祭模擬店への協力                       |
| 12 月 23 日 | 八朔狩り・鍋パーティー                      |
| 1 月 20 日  | フランス・デュモン・ピアノコンサート               |
| 2 月 26 日  | （株）島精機製作所見学<br>県立美術館・博物館訪問       |

#### 年 間

- ・就職活動に向けた勉強会
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・留学生活動（卒業アルバムの作成・大学祭の模擬店）の協力
- ・ホストファミリーとしての支援

## 会社見学

項 海倫（中国）

2月26日、日本に来てから初めて工場見学を体験しました。見学先は創業以来50余年の歴史を持っている島精機製作所です。和歌山県の有名企業として、島精機は絶えず新製品を開発し、海外にも評判がすごくよくて、和歌山のリーダー企業と言っても過言ではありません。

その日の朝、私たちはWINコンコードの先生たちに連れられて、わくわくする気持ちをもって島精機の本社へ行きました。車を降りてから、まず華麗で立派なエントランスホールに入って手厚い接待を受けました。親切な接待係は、簡単な紹介をしながらハイビジョンホールに連れて行きました。席に着いたら、まず私たちはテーブルの上に置いてあるパンフレットに目を通して、島精機の経営内容をだいたい了解しました。それから、会社のスタッフは島精機の記録ビデオを放送してくれました。

「全自動手袋編機」の開発を創業の原点とする島精機は、「限りなき前進—Ever Onward」を経営理念に掲げ、常に新しい技術の開発を目指して惜しみない努力と未知なる領域への挑戦を続けています。この会社に対する一番の印象は、やはり創造力です。もともとは手袋しか作れない編機が、何度も改造され革新されて、もう世界中に有名なファッション編機になりました。その飛躍がなければ今の会社の繁栄は遂げられないでしょう。

ビデオの後、私たち留学生はいろいろな質問をしました。そのスタッフは何でも根気強く回答してくれて、島精機の全てについてより一層理解を深めました。続いて、ずっと楽しみにしていた現地見学に入りました。普通は工場といえば、うるさくて、暗くて、臭い匂いが流れるというイメージがあります。しかし、島精機の工場に入ると、まったく違うと感じました。どこも光たっぷりで、床や壁もすごくきれいで、匂いもそんなに刺激的ではありません。私たちははじめにスタッフの説明を聞きながら、周りの多種多様の機器を見回して本当に感心しました。

そのような精密機器は、やはり技術開発員たちの知恵と努力の結晶ですね。見学の間、各部門を行ったり来たりしてコンピューター横編機の組み立てラインとか、自動裁断機の組み立てラインと



か、デザイシステムを組み立てラインとか、手袋の組み立てラインとか、たくさんの組み立てラインを見て工場の働きのパターンがだんだんわかるようになりました。

一人の力には限界があるのですが、みんなの力をあわせるとなんでもできます。工場では協業が確かに一番大切なことです。それは明らかです。

見学最後に、私たちは島精機の最も新しい工場へ行きました。その工場には機器だけでなく、ファッションの服装もいっぱい並んでいました。そんなきれいな服装はきっと手作りだと思ったのですが、結局、全部一着丸ごと立体的に編まれた製品だとわかってびっくりしました。機器で縫い目もない服を作るなんて、私たちにとって全然想像もつきませんでした。その先進的な技法は、コストを大幅削減するだけでなくエネルギーと二酸化炭素の排出量も削減します。さすがに「人に、地球に、やさしい」工場です。

今回の見学は、私たちの視野を広げて本当にいい経験になりました。今の時代には、世界は毎日変わっているので、ほかの会社と競争するため、創造力を出さなければならないです。もしそのまま何も変わらず発展すれば、遅かれ早かれ淘汰されると思います。「ないものは自ら創り出す」という理念を持っている島精機はまさに想像力と創造力に富んでいる会社の代表です。島精機の社長は、小さい手袋製作所から今世界中に有名な大会社までずっと飽きることを知らずに努力してきています。彼の成功は、今奮闘中の私たち若者にとって非常に役立って素晴らしい励ましです。これから、日本に滞在する時間は半年しかありませんが、私はぜひ彼に見習って創造力を出し、もっと根気強く学習に全力を投入して、彼のような優れた社会人になるために頑張って充実した毎日を送っていきたいと思います。

## 惚れる

王 翔渤（中国）

随分前から時々思っていたけれども、学生時代にピリオドを打つ際、もしくは和歌山を離れる際、何かを書こうって。真面目な言葉と感動的な言葉を散々使って、胸に刻んだ様々なシーンを文字に残そうと思っていた。

しかし、手がキーボードについた瞬間、何も書けない。今までこんなに経験してきたのに…。

5年。長くはないけれど、短くもない。一人の人生において10数回の5年があるけれど、身と心に刻んで忘れられない5年って何回あるの？

目を閉じて、スーツケースを両手に、閑空のバス停で戸惑っていた自分を思い浮かべてみた。

昔、僕が認識している家事って食器を洗ったり、床を拭いたりするだけだと思っていた。けれど、5年の一人暮らしの間、お風呂の掃除まで家事をしっかりとやっていた。

昔、僕が病気にかかったら、誰かが面倒を見てくれるのが当然だと思っていた。けれど、交通事故にあった後、周りの人に迷惑を掛けたくないよう、自分一人で病院に通った。

昔、僕が保険などはもちろん、水道光熱費の支払いも僕と関係ないはずだと思っていた。けれど、今は国民健康保険や年金、水道光熱費の詳細もよく覚えた。

昔、僕が食べたいと思うものは、誰かに言ったらすぐ食べられると信じていた。けれど、今は大抵我慢することを選んだ。

昔、僕がアルバイト先って、所詮お小遣いを稼ぐ場にすぎないと言った事がある。けれど、今店に行ったら「ただいま！」を言いたいぐらいになった。

昔、僕が恋するって、好きでさえあればできると受け取っていた。けれど、杜悦と一緒にになれる日までは苦労した。

日本が一番最初にくれたものは、成長っていうものだ。「日本のことが好きですか？」という日本に来る前に聞かれた質問を思い出した。あの時、僕はアニメや漫画、ゲームを思いながら「好きです。」と言っていた。今もう一度答えると、僕はまた考えずに「好きですよ。」を口にする。けれど、今の「好き。」にはあまりにも沢山の感情が入っている。



アルバムを開いて、ある写真に引かれた。3年前、杜悦と一緒にルミナリエを見に行った時の写真だ。二人はルミナリエのように輝く笑顔だった。杜悦と知り合いになったのは、和歌山国際ボランティア組織が毎年行うヨットクルージングの時だった。

今の僕たちはよく言うのだ。もしあの時こんなイベントを開催してくれなかったら、僕たちはそのまますれ違ってしまったのであろうと。

また学校も、WIN コンコードも定期的に様々なイベントを開催し、イベント自身が面白いだけでなく、それを通じて出会った人々は人生における大切な友達や先生にもなった。学業で励まし合う同期達がいる。人生相談してくれた先輩達がいる。厳しくも優しく、研究者精神を教えてくれた先生がいる。就活でアドバイスや指導をくれた先生方もいる。いろいろ面倒を見てくれる WIN コンコードのお父さんやお母さん達がいる。

皆さんがいるから、僕は幸せな留学生活を送ることができたのだ。そして、無償で他人を助けることから心の喜びを貰う人生の生き方があると確信した。

進学、就職、恋愛、結婚、日本で人生の節目を何度も迎えた。それで一人の青年が一人の男にかわっている。今僕は大学院を卒業し、和歌山を離れ、東京で仕事生活を始める。生活における不慣れや仕事における挑戦など、大変なことが色々あると思うけれど、和歌山の皆さんから貰った助けや感動を未来に歩き出す勇気に変え、これからまだある沢山の5年で、もっともっと日本の好きなところを見つける。

それに僕は決めた。沢山の助けや感動をくださった方々を見習い、一日も早く一人前になり、一日も早く後輩たちの面倒を見られる日が来るように頑張る。





## WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>